短期予報解説資料　２０２６年１１月２０日１５時４０分発表

気象庁

１．実況上の着目点

① 500hPaのスケールの大きな寒冷渦の中心はサハリン周辺にあり、寒冷渦直下の間宮海峡に低気圧が停滞。日本付近では冬型の気圧配置が継続。全国的に強風やしけとなり、北・東日本の日本海側を中心に強い風が吹き、北陸・近畿地方では大しけの所がある。

② JPCZに伴う帯状対流雲が日本海から北陸地方周辺を指向しており、発雷を検知して、海上を中心に局地的にやや強い雨を解析し、北・東日本の山沿いを中心に3時間で10cm以上の降雪を観測。



主要じょう乱解説図

２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 21日にかけて、1項①の寒気渦を中心としたスケールの大きなトラフが残って冬型の気圧配置は継続するが、寒冷渦の中心はサハリンからカムチャッカ半島へ移り、間宮海峡の低気圧は不明瞭化して、21日は日本付近の気圧の傾きは全体的にやや緩む。22日は、スケールの大きなトラフは浅まりながら日本の東に移動、500hPa 5460m付近のリッジが日本海に接近し、大陸の高気圧が次第に日本に張り出す。このため、冬型の気圧配置が次第に緩む見込み。

② 北陸・近畿地方では20日は、高波に警戒。北日本・北陸地方では21日にかけて、強風や高波に注意・警戒。日本の広い範囲で22日にかけて、強風や高波に注意。

③ 1項②の帯状対流雲は22日にかけて、北陸地方を中心に指向する。帯状対流雲の指向先では比較的強い雨や雪が断続的に続く。一方、2項①の間宮海峡の低気圧は不明瞭化し気圧の谷として北海道地方を20日夜に通過する。これに伴って局地的に降雪が強まる見込み。東北地方では20日は、大雪による交通障害に警戒。北・東日本では21日にかけて、大雪による交通障害、着雪、なだれに注意。北陸地方では22日にかけて、土砂災害に厳重警戒。また、大気の状態は引き続き非常に不安定となるため、北日本や北陸地方を中心に21日にかけて、落雷、突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

３．数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

４．防災関連事項［量的予報等］ ①雨量(18 時からの 24 時間)：北陸 120 ㎜。②降雪量(18 時からの 24 時間)：北海道・東北 50、東海 40、北陸・関東甲信 30㎝。③波浪(明日まで)：北陸・近畿 6、北海道・東北・伊豆諸島・中国 5、他は広い範囲で 3～4m。

５．全般気象解説情報発表の有無　「暴風・高波・大雨」を 17 時頃発表予定。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。